

# 岡山県, 湯原湖(湯原ダム)における夏季プランクトン相

富川 哲夫\*

On the Planktons of Yubara Dam lake in Summer, Okayama Prefecture

Tetsuo TOMIKAWA

## 1. はじめに

湯原湖は岡山県北部にある湯原温泉の上流約300mのところにあるダム湖である。その源流は岡山県と鳥取県の県境にある蒜山(ひるぜん)から発する旭川をせき止めて造ったもので昭和30年(1955)年に完成した。治水と発電の多目的ダムで総貯水量は9,960万 $m^3$ の大型のダム湖である。今回筆者は本湖の夏季プランクトンを調査する機会が得られたのでその概要を報告する。

## 2. 調査期日と調査方法

プランクトンの採集は1989年8月24日午前9時より10時にわたって行った。当日の天候は晴れ, 気温30 $^{\circ}C$ , 表面水温27.0 $^{\circ}C$ , 風力1, 水位は中程度で採集地点を図1に示した。船上より水平採集と垂直採集を繰り返し行った。

採集に用いたプランクトンネットは口径30cm, 長さ50cm, 編み目 $\times \times 13$ , 1目盛り95 $\mu m$ を用い, 同定は光学顕微鏡によって行った。

## 3. 調査結果

本湖に出現したプランクトンと出現量は表1と図2に示した。

湯原湖に出現した植物プランクトンは藍藻類のミズノハナが少量出現している。動物プランクトンの中で最も多いのは原生動物のトゲツボカムリとイケツノオビムシで, 輪虫類のハネウデワムシ, フクロワムシがこれについて多く見られた。また, 枝角類のヒメネコゼミジンコも多く見られたが, この種はダム湖では極めて珍しい種

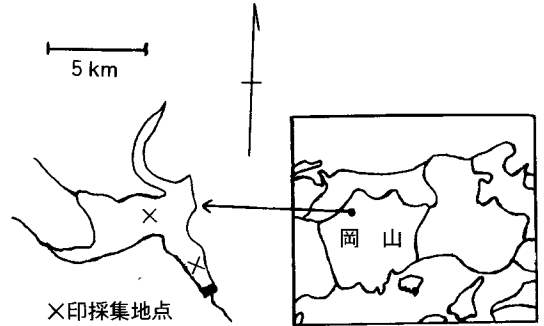


図1 湯原湖の地理的分布と湖の形状

である。その他橈脚類のアサガオケンミジンコがごく僅か出現している。本湖に出現したプランクトンの種類と出現量はダム湖としては多く, また出現種は平地富栄養性のものが多いのが特徴と思われる。

## 4. おわりに

本湖に出現したプランクトンは合計8種類であった。植物プランクトンは藍藻類のミズノハナが少量見られた。

動物プランクトンは原生動物のトゲツボカムリとイケツノオビムシが特に多く, その他輪虫類のハネウデワムシ, フクロワムシ, 枝角類のヒメネコゼミジンコも多く見られた。

## 5. 参考文献

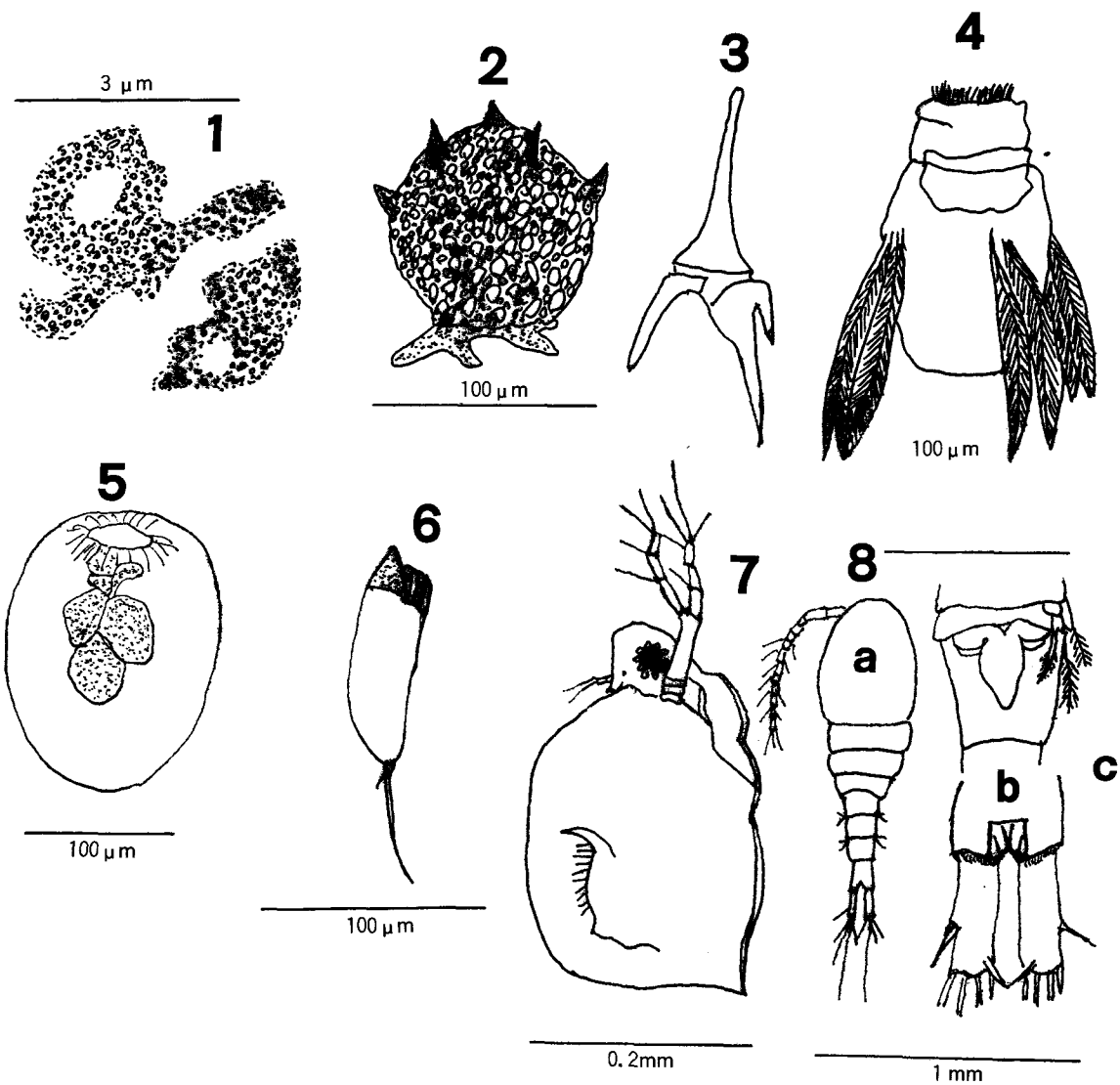
富川哲夫(1993): 川下川ダム湖の陸水学的調査報告, 兵庫生物 10.4, 135-138

表1 湯原湖における夏季プランクトン相

種類	種名	出現量	
藍藻類	ミズノハナ	<i>Microcystis aeruginosa</i> Kutzing	±
原生動物	トゲツボカムリ	<i>Diffugia corona</i> Wallich	+++
	イケツノオビムシ	<i>Ceratium hirundinella</i> O. F. Muller	+++
輪虫類	ハネウデワムシ	<i>Polyathra trigla</i> (Ehrenberg)	++
	フクロワムシ	<i>Asplanchna priodonta</i> Gosse	++
	ネズミワムシ	<i>Trichocerca capcina</i> (Werzejskiet Zacharias)	±±
枝角類	ヒメネコゼミジンコ	<i>Ceriodaphnia pulchella</i> G. O. Sars	++
橈脚類	アサガオケンミジンコ	<i>Mesocyclops leuckarti</i> (Claus)	±

\* 夙川学院高等学校・同短期大学

記号説明 +++極めて多い。++多い。  
±少ない。±±稀れ。



1. ミズノハナ
2. トゲツボカムリ
3. イケツノオビムシ
4. ハネウデムシ
5. フクロムシ

6. ネズミワムシ
7. ヒメネコゼミジンコ
8. アサガオケンミジンコ
  - a. 全形
  - b. 受精嚢と第5脚
  - c. 叉肢

図2 湯原湖の夏季プランクトン